

千葉県八千代市

市内遺跡発掘調査報告

平成5年度

八千代市教育委員会

例 言

1. 本書は、平成5年度市内遺跡発掘調査事業として、国庫・県費の補助を受けて次の4遺跡を
確認調査した報告である。

- a. 萱田町川崎山遺跡 かやだまちかわさきやま 萱田町字川崎山751-1 調査面積15,614㎡のうち1,720㎡ 原因 宅
地
- b. 追分遺跡 おいわけ 島田台字追分730-1 調査面積23,036㎡のうち3,150㎡ 原因 資材置場
- c. 上ノ山遺跡 うまのやま 萱田町字上ノ山883-1 調査面積1,997.24㎡のうち200㎡ 原因 共同住宅
- d. 桑橋新田遺跡 そうはししんでん 桑橋字井ノ下小谷津70 調査面積17,565㎡のうち2,150㎡ 原因 老人ホー
ム

目 次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 各遺跡の概要	2
1. 萱田町川崎山遺跡	2
2. 追分遺跡	4
3. 上ノ山遺跡	6
4. 桑橋新田遺跡	8

挿図・目次

第1図 市内全域図	1	第6図 上ノ山遺跡位置図	6
第2図 萱田町川崎山遺跡位置図	2	第7図 同 遺構確認状況図	7
第3図 同 遺構確認状況図	3	第8図 桑橋新田遺跡位置図	8
第4図 追分遺跡位置図	4	第9図 同 遺構確認状況図	9
第5図 同 遺構確認状況図	5		

図版・目次

図版1 萱田町川崎山遺跡 (作業風景等)	11	図版5 上ノ山遺跡 (作業風景・遺物)	15
図版2 萱田町川崎山遺跡 (出土遺物)	12	図版6 桑橋新田遺跡 (作業風景等)	16
図版3 追分遺跡 (プラン確認状況)	13	図版7 桑橋新田遺跡 (出土遺物)	17
図版4 追分遺跡 (出土遺物等)	14	図版8 桑橋新田遺跡 (出土遺物)	18

第1章 調査に至る経緯（第1図）

本市は東京への通勤圏として、電車路線の敷設や宅地確保のための開発事業が顕著である。こうした開発により埋蔵文化財も消失の一途をたどっている状況である。県教育委員会の指導のもと、文化財の所在の照会を行い、対処してきたところである。

調査した遺跡

寅田町川崎山遺跡は92年6月に、マンション建設のため、杉山泰一氏より照会され、協議されてきた。途中、申請者が川崎製鉄㈱に移行したが継続して協議を進めた。隣接する北側の都市計画道路敷設の際にも発掘調査が実施され弥生後期及び平安時代の住居址を発見しており、更に南側畑地においても弥生～古墳時代の土器片が散布していたため、諸準備が整ったのち、確認調査を実施した。



追分遺跡は93年3月に、資材置場のため、柳鈴忠不動産より照会され、協議してきた。照会地内の畑地において遺物も散見しており、山林部分の抜根も当初予定されていたことから、下草刈り後、確認調査を実施した。

上ノ山遺跡は93年2月に、中台道子・昭氏より共同住宅建設のため照会され、協議してきた。照会地では土器片が散見しており、北側近接地において調査により弥生後期の住居址も発見されている経緯もあるため、今回確認調査を実施した。

桑橋新田遺跡は、昨年度からの継続として残余部分について、確認調査を実施した。

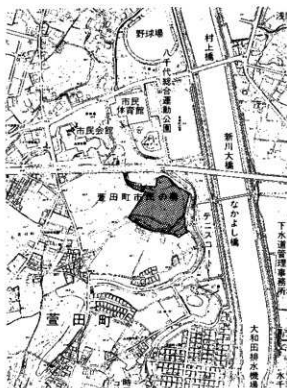
第1図 市内全域図

46 追分遺跡 59 桑橋新田遺跡

241 寅田川崎遺跡 243上ノ山遺跡

第2章 各遺跡の概要

1. 萱田町川崎山遺跡 (第1～3図、図版1・2)



第2図 萱田町川崎山遺跡位置図

ため)、15日～19日遺構確定作業、器材撤収により終了した。

調査の概要 今回の調査では、縄文時代後期の住居址2軒、同時代不明期のピット1基、落とし穴状遺構1基、弥生時代後期の住居址1軒、古墳時代前期の住居址43軒、時期不明のピット23基を確認した。遺構確定作業時のサブトレンチによる観察では住居址の深さは浅いもので15cm、深いもので80cmを測る。規模については明確たり得なかった。本遺跡の基本層序は、I表土・攪乱層、II黒褐色土、III暗褐色土、IVソフトロームとなっている。遺構の確認面は弥生後期以降でIII層上面、縄文時代ではIII層を若干掘り下げないと確認はむずかしかった。

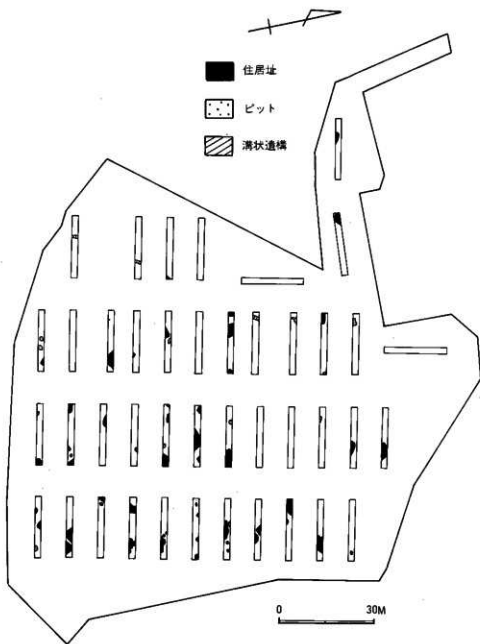
出土遺物 縄文式土器片、弥生式土器片が少量、古墳時代前後半が主体を占めた。

調査のまとめ 遺構としては古墳時代前期の住居址群が主体を占めるが、弥生時代後期～終末の土器片も散見していることから、同時期の住居址も少なからず存在すると考えられる。本調査が予定されるので後日明白になると思う。

遺跡の立地と概要 本遺跡は新川西岸の萱田町地区に面した、標高23mの台地上に所在し、水田面との比高は16mを測る。

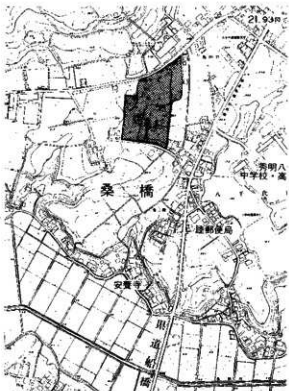
調査対象地は萱田町川崎山遺跡として周知の遺跡である。79年都市計画道路敷設に先行して調査が実施され、先土器時代～歴史時代の遺構・遺物が発見されている。92年にも計画道路に面した一面において縄文時代～歴史時代の遺構・遺物が発見されている。

調査の方法と経過 調査は残存緑地の関係もあり、伐採前に実施した。20m×2mのトレンチを立木間をぬって設定し掘りさげた。93年9月20日器材搬入、重機による表土除去作業、22日～10月5日トレンチ内遺構確認作業、6日～13日確認面より下層掘り下げ作業(縄文時代以前の遺構確認の



第3図 遺構確認状況図 (1 : 1,200)

2. 追分遺跡 (第1・4・5図、図版3・4)



第4図 追分遺跡位置図

遺跡の立地と概要 本遺跡は桑納川北岸に至る谷津の最奥部に位置し、標高約22mを測る台地上に所在する。水田面との比高は13mを測る。

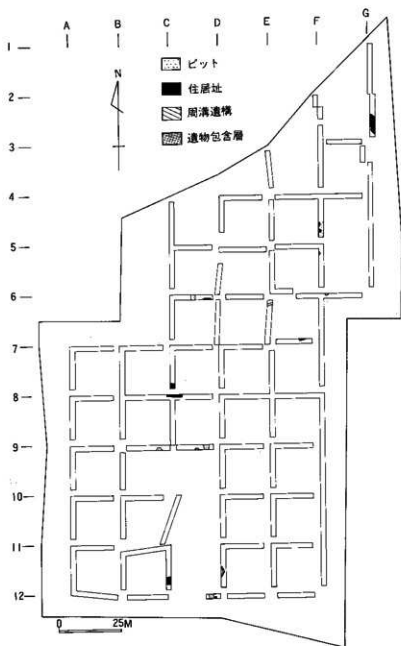
対象地は追分遺跡として周知の遺跡であり、縄文・歴史時代の包含地として把握されていた。また現地踏査においても、加曾利E式土器片、須恵器片の散布を確認した。

調査の方法と経過 調査は林地開発にかかる手続きの関係から伐採前に実施した。20m間隔に基本杭を設定し、基本杭間について東西方向、南北方向にトレンチを配し掘り下げた。経過は93年10月21日～26日トレンチ設定。27日～11月16日遺構確認作業、17・18日縄文・先土器時代遺構確認作業、19日遺構確認状況実測等により終了した。

調査の概要 平安時代住居址6軒、方形周溝遺構1基、時代不明ピット10基である。遺跡の基本層序は、I表土・根による攪乱層、II黒褐色土層、III暗褐色土層、IVソフトローム層となっている。縄文時代の遺物集中箇所が確認されているがIII層中位に集中している。平安時代の住居址等についてはIII層上面において確認している。

出土遺物 縄文時代では、中期加曾利E式、後期赤名寺式、堀之内式土器片、平安時代では、ロクロ使用土師器坏片等である。また方形周溝遺構と考えられる溝下層から須恵器長頸壺が単独で出土している。

調査のまとめ 今回の調査区域においては遺構密度は希薄であろうと考えられる。遺物の出土量も対象面積に比べて非常に少ない。ただ明らかに平安時代の集落として展開していることは明白である。また縄文中・後期における遺物包含層も希少なながら存在する。遺跡の主体は北側ゴルフ場付近に展開しているのかもしれない。資料の蓄積をはかっていきたい。



第5図 遺構確認状況図 (1 : 1,500)

3. 上ノ山遺跡 (第1・6・7図、図版5)



第6図 上ノ山遺跡位置図

遺跡の立地と概要 上ノ山遺跡は新川西岸の台地上に位置しており、標高は24m前後を測る。遺跡の西には新川から谷津が入り込んでいる。

調査区の北側の近接地は、87年に本調査を実施しており、弥生時代後期の住居址が2軒検出されている。調査区の現地踏査においても、弥生土器、土師器等の散布が少量であるが確認されている。

調査の方法と経過 調査は公共座標に基づいて10m方眼を組んだのち、これに平行する形でトレンチを設定して実施した。

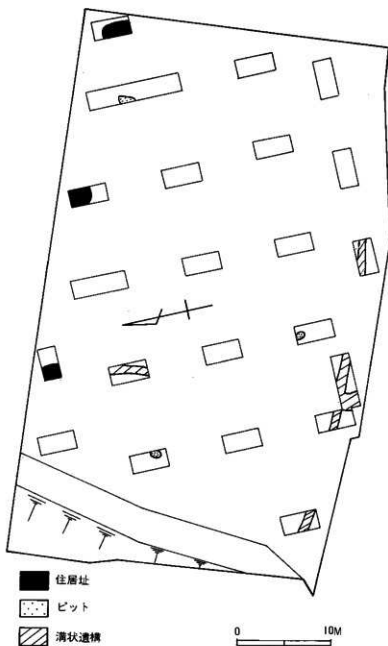
調査期間は93年12月15～27日で、15日調査準備(器材搬入等)、16～23日トレンチ掘り下げ、24～27日遺構確認状況等実測、撮影、27日午後器材撤収により調査を終了した。

調査の概要 調査の結果、住居址3軒(弥生時代後期)、土壌3基(時期不明)、溝状遺構2条(時期不明)を検出した。調査区の現況は畑地と梅林であったが、農耕用トレンチャーによる溝状攪乱がひどいために、遺構確認面は耕作土下のソフトローム上面であった。住居址の覆土は黒色土を基調とするものであり、サブトレンチを設定して掘り下げた結果、壁高は20～40cmを測った。

出土遺物 弥生土器、土師器が少量、縄文土器が数点であった。調査区の南半分のトレンチからの遺物の出土は極少量であり、ほとんどの遺物は調査区北半分のトレンチからの出土であった。

また、サブトレンチを設定して掘り下げた住居址から底部欠損の無頸広口甕が出土している。

調査のまとめ 今回の調査では弥生時代後期の住居址3軒を検出することができた。今回の調査結果に、調査区北側隣接区の調査の成果を踏えて考えると、上ノ山遺跡における弥生時代後期の集落の広がりがある程度把握できるのではないと思われる。



第7図 遺構確認状況図 (1:400)

そのほしんてん
4. 桑橋新田遺跡 (第1・8・9図、図版6～8)



第8図 桑橋新田遺跡位置図

空白部分があるもの更に周辺に広がる様相であった。また南側において住居址と想定している落ち込みについては、サブトレンチによる観察から方形周溝墓の可能性も考えられる。

この遺跡の基本層序は、Ⅰ表土、Ⅱ黒褐色土、Ⅲ褐色土、Ⅳソフトローム層となっている。遺構確認面はおおむねⅢ層中である。

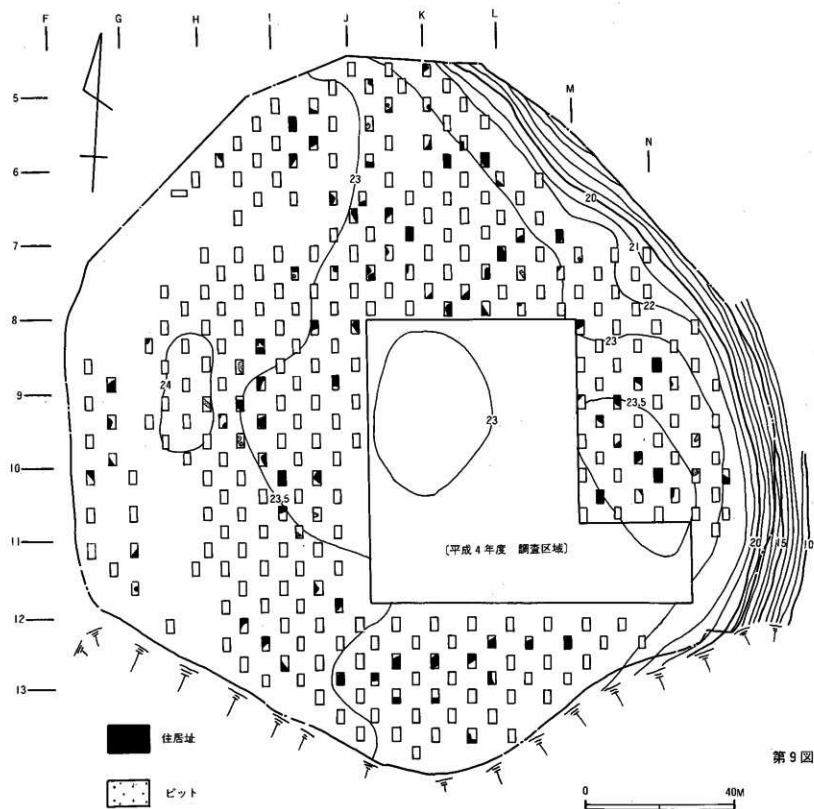
出土遺物 縄文式土器片 (早期: 然糸文系・前期: 浮島・中期: 下小野、加曾利E・後期: 称名寺、堀之内) が若干量、その他か石皿、凹石、黒曜石のフレイク等、弥生式土器片 (棒状浮文の壺口縁等) 稀少量、古墳時代前期土器片が主体量出土している。

調査のまとめ 昨年度の調査により遺跡の性格等をおおむね把握した。今回の調査は昨年度の成果を確実性をもって肉づけた感がある。遺跡の広がりは調査対象地全域に及んでおり、更に周辺に広がる様相である。出土遺物からは、竪穴住居址の主体が古墳時代前期というよりも、弥生時代後期～同終末期～古墳時代前期初頭を經過して集落が営まれているように思える。重機を使用しての確認調査ではあるが、今後本調査も予定されており本遺跡の全容も明らかになることと思われる。

調査の経過 本遺跡は92年8月に文化財の所在の有無にかかる照会が提出され、同年度中に建物部分の確認調査を終えた。93年度は残余の部分を確認調査の対象とした。

調査は、94年1月10日～13日トレンチ設定、1月17日～2月9日遺構確認作業、2月10日～17日遺構確定作業、18～22日遺物回収作業、22～24日遺構検出状況実測図作成等により終了した。

調査の概要 昨年度の調査は主体となる時代と遺構の密度について、把握することができた。今年度は遺構がどの程度広がりをもって台地上に展開しているのかに焦点をあわせて調査に臨んだ。今回の調査において確認した遺構は、竪穴住居址89軒 (うち縄文中期～後期2軒、弥生後期1軒)、ピット12基である。住居址の展開は一部に

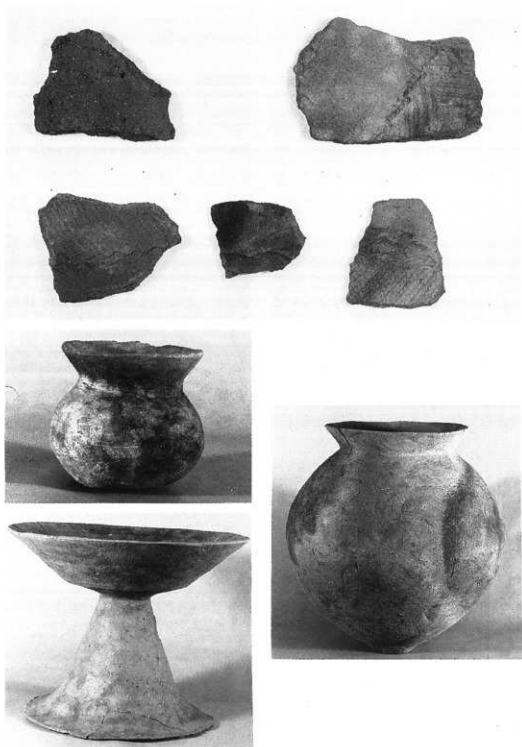


第9図 遺構確認状況図(1:1,000)

図版 I 壹田町川崎山遺跡



図版2 萱田町川崎山遺跡



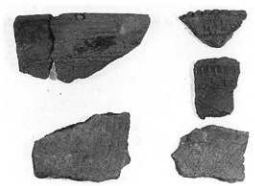
図版3 追分遺跡



圖版 4 追分遺跡



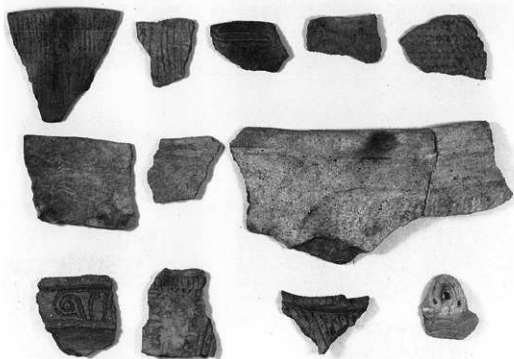
図版5 上ノ山遺跡



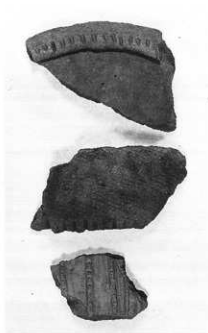
図版6 桑橋新田遺跡



図版 7 桑橋新田遺跡



図版 8 桑橋新田遺跡



調 査 組 織

調査主体者 磯貝 謙吾 (八千代市教育委員会教育長)

事務担当者 今井 利久 (八千代市教育委員会社会教育課長)

鈴木 賢治 (八千代市教育委員会社会教育課長補佐)

酒井 久男 (八千代市教育委員会社会教育課文化係長)

平山りえ子 (八千代市教育委員会社会教育課文化係主事)

調査担当者 森 竜哉 (八千代市教育委員会社会教育課文化係主事)

武藤 健一 (八千代市教育委員会社会教育課文化係主事補)

免調査補助員 長岡宣雄 草彌芳子 寺島稲子 花鳥あやめ 梅沢若恵 堀川和子 佐藤良子
遠藤玲子 花鳥さき 阿部るみ子 平田三恵子 加藤康子 落亀昌子 佐藤陽一
小塚英世 加藤紀子 獅子原祐子 森愛子 八藤後節子 小島保江 早坂英子
原田雪子 岩井アヤ 中尾恭子 東原和男 田村美恵子 早坂幸子 遠藤啓子
岩瀬道子 野中則子 野中克則 鈴木喜久子 磯江公子 斎藤節子 宮腰和子
佐藤忠信 木村しづ子 前嶋京子 笠川千代子 小林美津子 金子はる 杉谷歌子
矢尾ヤス子 岩沢千恵子 小森真由実

出土遺物整理員 草彌芳子 寺島稲子 遠藤玲子 阿部るみ子 平田三恵子 加藤康子 落亀昌子
小塚英世 加藤紀子 森愛子 金子はる 杉谷歌子 矢尾ヤス子 岩沢千恵子
小森真由実

千葉県 八千代市
市内遺跡発掘調査報告

印刷日 1994年3月25日
発行日 1994年3月31日
発行 八千代市教育委員会
生涯学習部社会教育課
〒276 八千代市大和田新田312-5
TEL. 0474 (83) 1151
印刷 榎 八 千 代 印刷
TEL. 0474 (82) 6231